

教育・研究業績書

<p>診療部名 越谷病院臨床検査部</p>		
<p><教員の紹介></p> <p>教授 春木 宏介 講師 鈴木 美登利</p>		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
<p>1 越谷病院における教育</p> <p>1) B S L</p> <p>2) 研修医</p> <p>3) 教職員</p>	<p>2004年5月～現在</p> <p>2004年5月～現在</p> <p>2004年5月～現在</p>	<p>越谷病院検査部においてBSL学生に対し1週間検査医学を中心に教育を行った。内容は検査部の在り方や検査原理、院内感染対策、血液学については講義形式で行い、実技としては一般検査、血液検査、細菌検査を行い院内感染対策には実際病棟回診を行い現場に密接した参加型の教育を行った。</p> <p>越谷病院検査部において1ヶ月間研修医に対する教育を行った。午前中は主として生理機能検査における超音波（腹部、心臓）検査に従事し午後は毎週、院内感染回診に参加、またNSTに参加するなど検査医学のみならずチーム医療に関する教育を行った。細菌検査や血液検査は実際に検査を行い検査はただデータを受け取るのではなくそのデータの後ろに隠れている現実を理解してもらうように努めた。</p> <p>越谷病院内部において院内感染対策及び臨床血液を中心とする講演を行った。対象は全職員でありテーマに合わせたものを実施した。新型インフルエンザ対策の一環として防護服着脱訓練や新型コロナウイルス発生時の危機管理などについて、厚生労働省の専門家を交えての討論も行った。</p> <p>第3学年においてウイルス学、細菌学、真菌学、寄生虫学に関する臨床検査の講義を行った。特に新しい検査法の紹介や検体採取の重要性、検体の質の重要性など実際に臨床の場で必要な項目に</p>

<p>2) 感染症学 (防衛医科大学校、国立国際医療センター)</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>ついて重点的に教育を行った。 第3,4学年において感染症学とくに熱帯感染症に関する講義および実習を行った。内容は新興再興感染症を中心とした疫学、診断方法、治療であり学生が将来自衛隊医官として海外において活躍する場合の知識と実践すべき事柄について教育を行った。実習では場所を設定しある災害が発生した場合における感染症対策など具体例を提示して図上訓練を行った。国立国際医療センターではJICAプロジェクトの一環として開発途上国の医療従事者を対象とした途上国における院内感染対策の講義を行った。途上国と先進国の違いを明らかにし途上国でできることについて問題を掘り下げて講義を行った。</p>
<p>3) 国際保健学 (防衛医科大学校および東京大学医学部)</p> <p>3 学外教育</p> <p>1) セミナー (医療従事者、自衛隊員および一般)</p> <p>2) その他</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>世界の医療制度、とりわけ先進国と開発途上国について講義を行い、とくに先進国間の相違についてアメリカ、イギリスと比較し検討した。国際保健については東京大学で大学院留学生を中心に国際保健の過去、現在について講演し、今後の未来におけるあり方について講義を行った。 渡航医学について海外での生活と習慣病、予防可能な疾患、感染症についてセミナーを行った。海外で注意すべき事柄を短期滞在者、長期滞在者について滞在地を考慮し説明した。また海外で重要な位置を占めるメンタルヘルスについても講義を行った。 Neglected Disease (見放された疾患：熱帯病)に関する講演を行った。これは利益上採算が合わない熱帯病に対する薬剤開発の取り組みについて現状の説明を行った。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>講演用パワーポイント、ハンドアウト作成</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>講演毎にパワーポイント及び資料を作成している</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>臨床研修、セミナー受講</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>臨床研修指導医資格修得</p>

教育・研究業績書

診療部名	職名	氏名	
越谷病院臨床検査部	教授	春木 宏介	大学院の研究指導担当資格 有

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1987年11月～現在	日本感染症学会員
1988年5月～現在	日本化学療法学会員
1988年9月～現在	日本内科学会員
1991年5月～現在	日本熱帯医学会員
1992年12月～現在	Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene Fellow
1994年3月～現在	日本感染症学会評議員
1994年11月～現在	日本臨床薬理学会員
1996年4月～現在	日本寄生虫学会員
1996年7月～現在	日本国際保健医療学会員
1998年11月～現在	日本臨床薬理学会評議員
1999年6月～現在	日本臨床検査医学会員
2001年9月～現在	International Society of Travel Medicine 正会員
2001年9月～現在	American Society of Microbiology 正会員
2004年4月～現在	日本寄生虫学会評議員
2004年11月～現在	日本衛生学会員
2005年4月～現在	NPO 日本農業研修場協力団評議員
2005年9月～現在	日本公衆衛生学会員
2006年1月～現在	日本熱帯医学会評議員
2007年10月～現在	日本渡航医学会評議員
2007年10月～現在	日本臨床検査自動化学会評議員
2007年10月～現在	日本臨床検査自動化学会編集委員
2008年1月～現在	日本渡航医学会雑誌編集副委員長
2008年10月～現在	日本臨床微生物学会評議員
2009年1月～現在	日本環境感染学会評議員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 大友弘士, 奥沢英一, 加来浩器, 金子明, 狩野繁之, 菊池均, 木村幹男, 國井修, 古閑比斗志, 土田譲, 仲本光一, 長山人三, 西山利正, 濱田篤郎, 春木宏介, 日谷明裕, 藤井達也, 松村琢也, 三浦聡之, 水野泰孝, 宮村和夫: 日本の旅行者のためのマラリア予防ガイドライン, 初版 (マラリア予防専門家会議編), (ページ特定不可能, フリープレス, 東京, 2005.
2. 春木宏介: 鉤虫症 (十二指腸虫症), 原虫・寄生虫, 今日の治療指針 2008年版 187-188, 医学書院, 東京, 2008.

3. 春木宏介: ④寄生虫, 5. 特殊な病原微生物の検査, 感染症内科クリニカルスタンダード 第1版 87-90, 文光堂, 東京, 2008.

【原 著】

欧文

1. Sherchand JB, Haruki K: Rotavirus Diarrhoea in Children and Animals of Urban and Rural Nepal. Journal of Nepal Health Research Council 2: 5-8, 2005.
2. Haruki K, Furuya S, Saito S, Kamiya S, Kagei N: Gongylonema infection in man: A first case of gongylonemiasis in Japan. Helminthologia 42: 63-66, 2005.
3. Haruki K, Hayashi T, Kobayashi M, Katagiri T, Sakurai Y, Kitajima T: Myiasis with Dermatobia hominis in a traveller returning from Costa Rica: Review of thirty-three cases in Japan. J Travel Med 12: 285-288, 2005.
4. Tokumaru O, Haruki K, Bacal K, Katagiri T, Yamamoto T, Sakurai Y. Incidence of cancer among female flight attendants: a meta-analysis. J Travel Med. 2006 May-Jun;13:127-32, 2006.

和文

1. 片桐朝美, 春木宏介, 青木慎一郎, 櫻井裕: 視覚ハンディキャップテニスにおける楽しみについて. 体力・栄養免疫学雑誌 14: 247-250, 2004.
2. 片桐朝美, 古賀龍二, 益子俊志, 梅田孝, 春木宏介, 櫻井裕: 空挺隊員の腰痛と降下回数との関係について防衛衛生 52: 83-88, 2005.
3. 春木宏介: アウトブレイクにおけるICTの役割. Infection Control Vol 3 No.3 287-289, 2008.
4. 春木宏介: マラリアの診断と治療. Medical Practice Vol 25 No 5 835-839, 2008.
5. 春木宏介: 赤痢アメーバ症 化学療法の領域. Vol 24 No 9 1321-1326, 2008.
6. 春木宏介: 海外から帰国した場合 まれに経験される疾患における抗菌薬の使い方: こんなときに思いついて. 内科 Vol 102 No 5 910-913 2008.
7. 春木宏介: 南アジアの疾病; HIV, 結核, マラリアを中心とした感染症, Seminar, 地域における三大感染症: エイズ・結核・マラリア ① 感染症 (The Infection) Vol 38 No 6 アステラス製薬株式会社, 227-239, 2008.
8. 木村幹男, 春木宏介: マラリア (予防の現況) 暴露前予防 (Pre-exposure Prophylaxis: PrEP) 特徴ある感染症対策 Post-exposure Prophylaxis: PEP を中心に 臨床と微生物. Vol 35 No 6 677-684, 2008.

【症例報告】

和文

1. 春木宏介, 青山寿久, 片桐朝美, 山本泰輔, 櫻井裕, 小林睦生, 林利彦: 偶発性性擬性腸管ハエ症の1例. 第75回衛生学会総会, 新潟, 2005.

【総 説】

【そ の 他】

和文

1. 春木宏介：クロロキン耐性熱帯熱マラリアにおける感受性克服薬の探索 (課題番号：13670254) 平成13年度－14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書 平成15年4月, 2004.
2. 木村幹男, 氏田由可, 春木宏介：国際旅行医学会Listserve日本語抄訳集 (1) 国際医療協力研究委託費 海外旅行者の健康管理及び疾病予防に関する研究 平成13-15年度, 2004.
3. 春木宏介, 櫻井裕, 大友弘士：【国際感染症】 マラリア. 臨床と微生物 31: 43-48, 2004.
4. 春木宏介, 櫻井裕, 木村幹男：【新興再興感染症 SARSの教訓】 3部 再興感染症と注目される感染症マラリア. からだの科学増刊, 新興再興感染症, 229-233, 2004.
5. 春木宏介：【プライマリーケアの実際 臨床研修マニュアル】プライマリーケアのコツ. 感染症 マラリア. 臨床医 30: 1162-1163, 2004.
6. 春木宏介, 櫻井裕, 狩野繁之：トラベラーズワクチン. 渡航地域別にみたトラベラーズ ワクチン(解説/特集). 臨床と微生物 31: 299-302, 2004.
7. 春木宏介：【Infection Control 感染症対策は万全か?】 Q&A 知識の確認と最新情報マラリア. 救急集中治療 16: 557-560, 2004.
8. 大友弘士, 奥沢英一, 加来浩器, 金子明, 狩野繁之, 菊池均, 木村幹男, 國井修, 古閑比斗志, 土田譲, 仲本光一, 長山人三, 西山利正, 濱田篤郎, 春木宏介, 日谷明裕, 藤井達也, 松村琢也, 三浦聡之, 水野泰孝, 宮村和夫：マラリア予防ガイドライン案. Tropical Med Health 32: 127-139, 2004.
9. 春木宏介：バシパント学校寄生虫調査および学校保健プログラム. J A I T I 1, 2005.
10. 宮村和夫, 春木宏介, 木村幹男：国際旅行医学会Listserve日本語抄訳集 (2). 国際医療協力委託費「海外旅行者の健康管理及び疾病予防に関する研究」平成16年度, 2005.
11. 大崎敬子, 春木宏介：クロロキン耐性熱帯熱マラリアにおける感受性克服薬の探索. 平成15年度－平成16年度科学研究費補助金基盤研究C2研究成果報告書 課題番号：15500373, 2005.
12. 春木宏介：OVTA 派遣前研修、健康管理に関わる講義の効果について. OVTAグローバル人づくり. 海外職業訓練協会 89: 20-27, 2005.
13. 春木宏介：アウトブレイクにおけるICTの役割 Infection Control Vol 3 No 3 287-289, 2008.
14. 春木宏介：マラリアの診断と治療 Medical Practice Vol 25 No 5 835-839, 2008.
15. 春木宏介：赤痢アメーバ症 化学療法の領域 Vol 24 No 9 1321-1326, 2008.
16. 春木宏介：海外から帰国した場合 まれに経験される疾患における抗菌薬の使い方：こんなときに思いついて内科 Vol 102 No 5 910-913, 2008.
17. 木村幹男, 春木宏介：マラリア(予防の現況) 暴露前予防(Pre-exposure Prophylaxis: PrEP) 特徴ある感染症対策 Post-exposure Prophylaxis: PEPを中心に 臨床と微生物, Vol 35 No 6 677-684, 2008.
18. 春木宏介：南アジアの疾病; HIV, 結核, マラリアを中心とした感染症, Seminar, 地域における三大感染症: エイズ・結核・マラリア ① 感染症 (The Infection) Vol 38 No 6, 227-239, アステラス製薬株式会社 2008.

教育・研究業績書

<p>診療科部名 越谷病院臨床検査部</p>	<p>職名 講師</p>	<p>氏名 鈴木 美登利</p>	<p>大学院の研究指導担当資格 無</p>
<p>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</p>			
<p>Ⅲ 研究活動</p>			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>【そ の 他】</p>			